国　語　科　学　習　指　導　案　例

１　単元名

　「水の東西」山崎正和（「新編国語総合」東京書籍）

２　単元の目標

　比較構造で書かれた文章の構成や展開を確かめ、文章の内容や表現方法について評価したり、書き手の意図を捉えて要約したりする。

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ア　関心・意欲・態度 | イ　読む能力 | ウ　知識・理解 |
| ①本文を基にして、示された場面や状況を考えようとしている。 | ①文章の構成や展開を理解し、内容や表現方法について評価したり、書き手の主張を捉えたりしている。 | ①段落同士の関係等、文章の構造を理解している。  ②語句の意味を理解している。 |

４　単元の指導計画（全５時間）

|  |  |
| --- | --- |
| 時 | 学習活動 |
| 第１時 | ・対義語の学習と本文の読解から本単元の問いを設定し、ペア又はグループで話し合う。  ・本文中から本単元の問いの結論を仮設定し、発表する。 |
| 第２時 | ・形式段落１～３を読み、日本人の水の鑑賞の仕方について確認する。  ・形式段落４～７を読み、対比構造から日本人の水の捉え方について話し合う。 |
| 第３時 | ・形式段落４～７を読み、西洋人の水の鑑賞の仕方について確認する。  ・形式段落８、９から、日本人の「好み」を確認し、ペア又はグループで話し合う。 |
| 第４時 | ・形式段落８～１１を読み、日本人がもつ「独特の好み」を整理する。  ・形式段落１１から、本単元の問いの解答を確定させる。 |
| 第５時 | ・本文の対比構造を踏まえ、二つ以上のものを比較して説明する資料を作成する。 |

５　単元における「分かり方の特性」に応じた指導・支援のポイント

　教育庁指導部特別支援教育指導課が作成した「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント」（平成30年９月20日）の「通常の行動チェックリスト」及び、平成28年度東京都教職員研修センター教育課題研究「子供一人一人の『分かり方の特性』を生かした指導法に関する研究」指導資料「児童・生徒の得意な処理の傾向を簡易的に把握するためのチェックリスト」を用いて生徒一人一人の得意な処理の傾向を把握し、それぞれの得意な傾向に合わせた指導を行うことで、生徒の理解度の向上を図る。

　なお、生徒一人一人の「分かり方の特性」はいずれかの得意な傾向に依存するものではなく、どの特性がより優位であるかを示すものであるため、いずれかの傾向に傾倒しないようにすることが重要である。

(1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導・支援の工夫

|  |
| --- |
| 継次処理能力優位を生かした授業の展開 |
| ・形式段落を順次読解するが、前時の内容を踏まえつつ新たな視点を付け加えて授業を展開することで、意味段落同士のつながりを理解しやすくする。 |
| 同時処理能力優位を生かした授業の展開 |
| ・第１時に本文を通読し、文章が何を主張しているかということを単元の本質的な問いとして設定し、その問いに対する答えを結論として仮設定することで単元の見通しをもたせる。 |

(2) 情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

|  |  |
| --- | --- |
| 聴覚優位 | 言語視覚優位 |
| ○音読又は黙読の際に、唇を動かして読ませる。  ○濁音、半濁音、拗音をはっきりと発音し、理解させる。  ○ペア又はグループで話し合う。 | ○音読又は黙読の際に、難読語の読みを確認させる。  ○本文中の重要語句を丸で囲ませたり、キーワードを箇条書きにしたりする。  ○グループワークの際の視点を文字で表す。 |
| 象形視覚優位 | 体感覚優位 |
| ○本文の内容を意味段落のまとまりで図示する。  ○ＩＣＴ機器を用いて、授業内容に関する写真や映像を提示する。  ○重要語の対比構造が明確な板書を書く。 | ○ペア又はグループで話し合う。  ○本文中の重要語に線を引いたり書き出させたりしたものを基に、話合い活動を行う。  ○音読又は黙読の際に、唇を動かして読ませる。 |

(3) 読み書きアセスメントの結果を踏まえた指導の手だて

　　 事前に実施した「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント」の問題を、読解に関連する問と漢字の知識に関連する問とに分類し、それぞれの正答率を基に生徒をＡ領域からＤ領域の４領域に分類した。

|  |  |
| --- | --- |
| 領域名 | 分類条件及び傾向 |
| Ａ領域 | 読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50％以上である生徒 |
| Ｂ領域 | 読解に関連する問題の正答率は50％以上であるものの、漢字の知識に関連する問の正答率が50％未満である生徒 |
| Ｃ領域 | 漢字の知識に関連する問の正答率は50％以上であるものの、読解に関連する問の正答率が50％未満である生徒 |
| Ｄ領域 | 読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50％未満である生徒 |

　　読み書きアセスメントの結果を基に、以下の指導の手だてをクラスの傾向に応じて組み合わせることで、基礎的な学力の向上を図る。

　　ア　Ｂ領域の生徒に対する指導の手だて

　　　(ｱ) 語句の意味表を活用し、語彙力及び漢字の読み書きの能力や、学習した語句を適切に使用する力の向上を図る。

　　　(ｲ) 中学校程度の基本的な語を、授業の中で指導者が平易な言葉に言い換えて、意味を確認しながら読解を行うことで、基本的な語彙力の向上を図る。

　　イ　Ｃ領域の生徒に対する指導の手だて

　　　　本文中にある接続語の意味や使い方、指示語の指示内容を丁寧に確認しながら読解を行うことで、文と文のつながりや段落同士のつながりを意識して読む態度を養う。

　　これらの手だてに加え、通常の行動チェックリスト及び児童・生徒の得意な処理の傾向を簡易的に把握するためのチェックリストの結果を用いて、生徒一人一人傾向に合わせてペアワークやグループワークの編成を工夫したり、指導の手だてを工夫したりする。

６　本時の展開（全５時間中の第１時）

　　本時の目標：比較文化論の構造を理解し、単元の本質的な問いを設定する。

　※〔同〕は同時処理能力優位、〔継〕は継次処理能力優位、〔聴〕は聴覚優位、〔言〕は言語視覚優位、〔象〕は象形視覚優位、〔体〕は体感覚優位をそれぞれ表し、それぞれの生徒に合わせた指導上の工夫であり、《》は読み書き達成テスト結果におけるＡ～Ｄ領域の生徒に合わせた指導上の工夫を表す。また、　　　は各ＷＧの取組と関連の深い活動及び留意点を表す。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  まとめ | ○比較文化論について知り、身に付ける力を確認する。  ・対義語ゲームをする。  　上←→□　　右←→□  　東←→□  ・右の（例）を基に比較文化論の目的と特徴についての説明を聞く。  　一つのテーマでＡとＢを比較すると、それぞれの特徴が浮き彫りになることを生かして、文化について論じる文章。    【何ができるようになるか】  比較して論じる文章が読めると、本文に書いていないことまで分かるようになる。  ○本単元の本質的な問いを設定する。  ・範読を聞き、難読語の読みを確認する。〔聴〕  ・右のⅠとⅡの観点に沿って本質的な問いを設定する。個人での思考を経て、ペア又はグループ又で確認する。    **日本人の水の鑑賞の仕方はどのようなものか。（単元の中心的な問い）**  ・日本人の水の鑑賞の仕方はどのようなものか。（単元の本質的な問い）について、本文中から答えを探す。  ・個人で探し、ペアで確認した後、発表する。  ○全体で話し合い、本時の結論を導く。  「日本人は、流れを感じることで水を鑑賞する」  ○次時の活動の見通しをもつ。 | 提示した対義語以外にも知っているものがあれば発表させる。その際、右の対義語の理解に配慮して指導する。  　(例)  ①富士山は高い。  　②富士山の標高は3776mである。  　③富士山の標高は高尾山より3177m高い。  等の例から、一つのものの具体的な説明には②が正確であること、二つ以上のものの特徴を述べる場合には③が適していることをそれぞれ理解させる。また、ここから、明示がなくとも読み取れる情報があることを確認させ、意欲付ける。  語句の意味表を配布し、難読語の読み方と意味を確認させる。  Ⅰ東と西はそれぞれ何を指すか。  Ⅱそれぞれの水の捉え方はどのようなものがあるか。  生徒の発言を基に意味段落分けを行う。  ※明確に分け過ぎない。  「流れを感じること」という発言を導くよう、評論文の構成の序論、本論、結論の分け方等について説明する。  机間指導を行い、質問に正対しているか等について、適宜指導を行う。  場合によってはグループで協議する。  「流れを感じること」が出たら、「日本人の水の鑑賞の仕方はどのようなものか」と主述の関係、修飾・被修飾の関係に注意させ、一文にまとめさせる。  次時は全体の読解を行うことを予告し、「日本人は、流れを感じることで水を鑑賞する」について  ①どの記述から、それが分かるか。  ②「鹿おどし」と「噴水」はどう違うか。  ③なぜ結論のようにいえるのか。  等を口頭で質問し、各自で考察しておくよう指示する。 | 対義語の理解のために  〔聴〕対義語を読み聞かせる。濁音、半濁音、拗音をはっきりと発音する。  〔言〕《Ｂうえした、じょうげ等の読みを確認する。》  〔象〕ＩＣＴ等を用いて写真や図、動画等で表す。  〔体〕上下／左右など対で表せるものをジェスチャーで示させる。  　※③であるということは、言い換えると高尾山の標高は富士山より○m  低い。  　　《Ｂ対義語の確認、言い換え》  　　　　　↓つまり  　　高尾山の標高は、  　　599mである。  　　《Ｃ接続語の明示》    比較文化論の理解のために  〔聴〕例文を丁寧に音読する。  〔言・象〕左の①②③を一文ずつ短冊等にして明示する。  〔体〕同様の例を挙げさせ、発表する。  本文及び語句の理解のために  《Ｂルビ振り版本文及び語句の意味表》  《Ｃ形式段落の明示》  〔同〕本文を通読し、結論と思われる箇所に線を引く。  〔継〕形式段落に区切り、それぞれの段落で話題になっていることを書き出す。  〔象〕黙読し、難読語を丸で囲むよう指示する。  《Ｃ簡単な構造図を書かせ、構造図の理由を問う。》  〔象・言〕接続語、助動詞を丸で囲む。  《Ｂ主述の関係から、それぞれの文が何について述べている文かを確認させる。》  〔体〕重要語に線を引き、それを基に話す。  単元の本質的な問いを導くために  〔同〕結論と思われる箇所から、「なぜそう言えるのか」を基に本文中から探すよう指示する。  〔継〕分けた意味段落の構成を掛かりに、本文中から探すよう指示する。  〔言・体〕ペア又はグループでの確認及び発表。  《Ｂ主述の関係や、修飾・被修飾の関係から、それぞれの文が何について述べている文かを確認させる。》  〔同〕本時の問いから、「なぜそう言えるのか」を基に本文中から探すよう指示する。  〔継〕序文から本文を再読させ、左の②①③の順で整理させる。 | 【ウ②】  本文に示された語句の意味を理解している。（語句の意味表）  【ウ①】  段落同士の関係等、文章の構造を理解している。（発言） |

７　本時の展開（第２時）

本時の目標：西洋と日本とを比較し、水に対する「日本人の捉え方」を読み取る。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  展開  まとめ | ○前時の内容を振り返り、単元の問いと、前時に探した結論を確認する。  （問い）日本人の水の鑑賞の仕方はどのようなものか。  （結論）日本人は、流れを感じることで水を鑑賞する。  ○本時の問いを提示する。    日本人が水を鑑賞するしかけとその特徴は何か。  ○前半部を読解する。  ・形式段落１～３を読み、日本人の「水を鑑賞するしかけ」と「その特徴」が分かる叙述を調べる。  　重要箇所への線引き等の個人作業の後、ペア又はグループで確認し、全体で共有する。  　・個人作業  　・ペア又はグループ又での確認  　・全体での共有  日本人は、「鹿おどし」で「水をせき止め、刻む」ことで「流れるもの」を感じる。  ・形式段落４～７を読み、対比構造を踏まえて「日本人が水を鑑賞するしかけとその特徴」を調べる。  重要箇所への線引きやノートの作成等の個人作業の後、ペア又はグループで確認し、全体で共有する。  ・個人作業  　①西洋人が水を楽しむしかけとその特徴を調べる。  　②その表現を対義語を用いて表現する。  ・ペア又はグループでの確認  　・全体での共有  日本人が水を鑑賞するしかけは鹿おどしであり、それは  ・風景の一部  ・自然の中の水  ・流れる　　　　　　等  ○本時の内容を振り返る。 | 「流れを感じる」「水を鑑賞する」ことが具体的に想像できないことを指摘し、本時の問いにつなげる。その際、前時の最後に提示した問いを参考にする。  ①どの記述から、それが分かるか。  ②「鹿おどし」と「噴水」はどう違うか。  ③なぜ結論のようにいえるのか。  語句の意味表を配布し、「鑑賞」の意味に注意するよう伝える。  読む活動の際に意味が分からない語を抽出することを伝える。  重要箇所の線引きは、以下の視点を提示する。  ①日本人は何によって流れを感じているのか。  ②日本人は「流れ」をどのようにすることで感じているのか。  「やがて」「しかし」「ただ」「だが」等の語の用法を確認させる。  「水の流れ」が「時の流れ」とつながることで、「鑑賞」の意味を再確認させる。  発表から本時の問いの解答が示されたら板書しておき、対比構造を踏まえてより解答を補強する旨を伝える。  西洋人にとっては、噴水が水の芸術である。  ①趣向を凝らして風景の中心になっている。  ②自然は添え物にすぎない。  ③音を立てて空間に静止  　等  本文における対比構造から、西洋人のことを述べることが、言外に日本人の特徴を述べていることを意識させる。 | 〔同〕結論←本論←序論を板書し、本時の内容は前半が「序論」、後半が「本論１」であることを明示する。  〔継〕本時の学習の流れと手順を示す。  右の①②の理解のために  《Ｂルビ振り版本文及び語句の意味表》  《Ｃ形式段落の明示及び指示語の内容の確認》  〔聴〕音読又は唇を動かして読む。  〔言〕本文中の「流れ」を丸で囲み、前後の文に注目させる。  〔象〕本文の内容をノートに図示する。  〔体〕音読又は唇を動かして読む。  《Ｂ重要語句の確認》  ①けだるさ　②筧　③徒労  ④静寂　⑤いやがうえにも  ⑥かえって　　　　　　等  〔聴・体〕書いたものを見せ合う。  〔言・象〕ＩＣＴ等を用いて図示したり、線引き箇所を視覚的に示したりする。  〔同〕板書を上下二分割で書く。  〔継〕文章の構成に従って日本→西洋→読み取れる日本の内容の順に書く。  対比構造を読み取るために  《Ｂ対義語の理解》  《Ｃ指示語の内容の確認》  〔聴〕音読又は唇を動かして読む。  〔言〕西洋の「しかけ」を丸で囲み、前後の文に注目させる。  〔象〕本文の内容をノートに図示する。  〔体〕音読又は唇を動かして読む。  《Ｂ重要語句の確認》  ①至る所　②趣向を凝らす　③林立  《Ｃ主述の関係から、それぞれの文が何について述べている文かを確認させる。》  〔聴・体〕書いたものを見せ合う。  〔言・象〕ＩＣＴ等を用いて図示したり、線引き箇所を視覚的に示したりする。 | 【ウ②】  本文に示された語句の意味を理解している。（語句の意味表）  【ア】  本文を基にして、示された場面や状況を考えようとしている。（ペア又はグループでの発言等）  【ウ①】  どの表現が対比しているかを線引きしたり抜き出したりすることができる。  （挙手による発表等） |

８　本時の展開（第３時）

　　本時の目標：対比構造を用いて、日本人の水に対する「好み」を読み取る。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  展開  まとめ | ○前時の内容を振り返り、西洋人と日本人それぞれの「水を鑑賞するしかけとその特徴」について確認し、本時の授業展開を確認する。  ○中段部を読解する。  ・形式段落３～６を読み、水に対する「西洋人の捉え方」が分かる叙述を調べる。  重要箇所への線引きやノートの作成等の個人作業の後、ペア又はグループで確認し、全体で共有する。  　・個人作業  　　①前時で挙がらなかった噴水の特徴を挙げ、線を引く。右の①から⑥の中で、前時に挙がらなかったものを挙げる。  ・ペア又はグループでの確認  　・全体での共有  ○本時の問いを提示する。  日本人の水の捉え方はどのようなものか。  ・形式段落７、８から、日本人の作る噴水が西洋のものほど美しくない理由を、対比構造を用いて作文する。  　・個人作業  ・ペア又はグループでの確認  　・全体での共有  ・日本の空気は湿っていて、人々が噴き上げる水を求めなかった。  ・水道の技術が、噴水を発達させるのに不利であった。  ・「外面的」の対義語を発問で問い、日本人が噴水を作らなかった「内面的な理由を本文中から探す。  　個人での作業、グループ又はペアでの確認の後、全体で共有する。  ・日本人にとって水は自然に流れる姿が美しい。  ○本時の振り返りを行う。 | 前時の問いと答えを振り返らせる。  西洋人の水の芸術は「噴水」で、日本人が水を鑑賞するしかけは「鹿おどし」である。  噴水の特徴  ①至る所に見事な噴水があった。  ②趣向を凝らして風景の中心になっている。  ③庭をぎっしりと埋め尽くしていた。  ④自然は添え物にすぎない。  ⑤水の造形が轟きながら林立している  ⑥音を立てて空間に静止  対比構造を用いると、これらの叙述から日本のことまで読み取れることを伝える。  本文中から根拠を探してから作文するよう指示する。  左の質問で分からない生徒には、「なぜ日本の噴水が西洋のものほど美しくないか」を問う。  対比構造から読み取れることを伝える。  左の理由はあくまでも「外面的」なものであることを伝える。  対比構造を用いて西洋人の水の捉え方を発問する。  ※「しかけ」が人工物であることに気付かせることで、単元の本質的な問いが単純に「日本人は自然そのままの姿を美しいと思う民族だ」という結論に至らせないよう注意する。  　（参考資料「演じられた風景」参照） | 〔同〕結論←本論←序論を板書し、本時の内容は前半が「本論２」であり、後半が「結論」の前半であることを明示する。  〔継〕現在の活動内容を板書で強調する。  叙述を調べるために  《Ｂ重要語句の確認（前時参照）》  《Ｃ段落構成の確認》  　形式段落１～３の話題は鹿おどし（日本）であり、段落５は噴水（西洋）である。  〔聴〕音読又は唇を動かして読む。  〔言〕西洋の「しかけ」を丸で囲み、前後の文に注目させる。  〔象〕本文の内容をノートに図示する。  〔体〕音読又は唇を動かして読む。  〔聴・体〕書いたものを見せ合う。  〔言・象〕ＩＣＴ等を用いて図示したり、線引き箇所を視覚的に示したりする。  作文するために  《Ｂ重要語句の確認》  ①せせらぎ　②至る  ③間が抜ける　③乏しい  ④圧縮　⑤造形　等  《Ｂ対義語の表現の確認》  《Ｃ指示語、接続語の確認》  《Ｃ作成した文の主述、係り受け等の確認》  〔聴・体〕書いたものを見せ合う。  〔言・象〕ＩＣＴ等を用いて図示したり、線引き箇所を視覚的に示したりする。  〔言・象〕ローマの水道の様子や、日本の火山活動による水の豊富さ等、補助資料があれば提示する。  叙述を探すために  《Ｂ対義語の表現の確認》  《Ｃ探した文の主述、係り受け等の確認》 | 【ア、イ】  本文に示された話題の変化を観点に、示された内容を理解している。  （発言等）  （机間指導）  【ア、イ】  本文に示された話題の変化を観点に、示された内容を理解している。  （発言等） |

９　本時の展開（第４時）

　　本時の目標：日本人がもつ「独特の好み」を読み取り、本単元の問いの解答を導く。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  展開  まとめ | ○前時の内容を振り返り、日本人の水の捉え方は「自然をそのまま感じるために、人工的な仕掛けを用いる」ことであるということを確認する。  ○形式段落９～11段落の読解を行い、単元の本質的な問いの解答を導くことを予告する。  **日本人の水の鑑賞の仕方は**  **どのようなものか。**  **（単元の本質的な問い）**  ○後半部を読解する。  ・形式段落９を読み、「日本人の好み」を読み取る。個人での作業の後、グループ又はペアで確認し、全体で共有する。  　①「思想」と「感性」の言葉の意味を、辞書や自分のデバイスを用いて調べる。  　②「思想」と「感性」及び「好み」の関係を文章で示すか図示する。  　③日本人の「感性」とは何か本文中から探す。  ・グループ又はペアでの確認  　・全体での共有  「積極的に形なきものを恐れない心」は思想以前の感性（より根深いもの）に結びついており、「行雲流水」の思想につながる。  ・単元の本質的な問いに対する解答を裏付け、形式段落11をまとめる。    　単元の問い  日本人の水の鑑賞の仕方はどのようなものか  　発問①  　水の鑑賞の仕掛けは何か。  　→鹿おどし  　発問②  　どのように鑑賞するか。  　→流れをせき止め、刻むことで流れを感じる。    日本人は鹿おどし（＝しかけ）を用いて流れる水をせき止めることで、「流れるもの」を感じる。  　発問③  　なぜ「水を鑑賞する」なのか。  　→水を見る必要がないから。  　発問④  　なぜ水を見る必要がないのか  　→日本人は、形のないものを恐れない感性をもっているから。  ○本時の振り返りを行う。 | 前時の問いの解答に、「しかけ」が必要であることを確認させる。  好み＝思想（感性による裏付け）  日本の自然信仰等を例にとってこの「感性」が「独特」であることに注目させる。また、前時同様に「自然そのまま」を鑑賞するために「しかけ」が必要であることを強調する。  発問の後は発言させず、本文中から根拠となる部分を探させ、ノートにまとめさせる。  発問を④③①②の順に読むと、形式段落11と同内容であることに気付かせる。 | 〔同〕単元の本質的な問いを板書する。  〔継〕これまでの本時の問いを提示し、文章のつながりを意識させる。  《Ｃ意味段落のつながり》  読解のために  《Ｂ重要語句の確認》  ①行雲流水　②思想  ③感性　④裏付ける  ⑤外界　⑥受動（能動）  ⑦積極（消極）  《Ｃ指示語の内容の確認》  〔聴・体〕書いたものを見せ合う。  〔言・象〕ＩＣＴ等を用いて図示したり、線引き箇所を視覚的に示したりする。  〔同〕結論から「なぜ」をキーワードに授業を進める。  〔継〕板書は段落順に書き、右から左への一覧性を確保する。  解答を導くために  《Ｂ重要語句の確認》  ①断続　②間隙　③間接  ④味わう⑤極致　等  《Ｃ指示語、接続語を重視した論理の明示》  ①そういう思想  ②それは外界に　等 | 【イ】  文章の構成や展開を理解し、内容や表現方法について評価したり、書き手の主張を捉えたりしている。 |

１０　本時の展開（第５時）

　　　本時の目標：「水の東西」を踏まえて、自分なりの説明資料を作成する。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容  ・学習活動 | 指導上の留意点  配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準  （評価方法） |
| 導入  展開  発展的課題 | ○前時で示した単元の本質的な問いの解答が「日本人は鹿おどし（＝しかけ）を用いて流れる水をせき止めることで、「流れるもの」を感じることであることを確認する。  ○第一時の【何ができるようになるか】の「比較して論じる文章が読めると、本文に書いていないことまで分かるようになる。」ことができたことを確認する。  ・異なる文化について、対比構造を用いながらプレゼンテーションする資料を作成する。個人での作業の後、ペア又はグループで確認、修正する。 | 前時の板書を確認させる。  第一時の例等を用いて具体的に提示する。  例を挙げ、生徒に発言させる。  留意事項  ①西洋と日本の比較でなくともよい。  ②自分の興味ある話題を選択してよい。  ③必ず対比構造を入れること。  ④発表形式は、作文、スライド及び読み原稿の作成、劇のいずれかとする。  到達進度によって、参考資料「演じられた風景」を読ませる。 | 〔同〕本時の目標を提示する。  〔継〕本時の授業の流れを提示する。  《Ｂ例文の対義語の確認》  発表のために  《Ｂ本文で用いられた言葉をできるだけ使用するよう指導する》  《Ｃ対比構造を表す表現の理解　○○に対して　等》  〔聴〕スライドの読み原稿を音読し、修正する。  〔言〕作文で発表する。  〔象〕スライド原稿を作成させ、そこから話す内容を考える。  〔体〕ペア又はグループで劇を発表する。 | 【ア、イ、ウ①②】  ○作成物 |